

年よりであることを意識しています。ただ私はどうも友人等に較べて精神年齢が若く(つまり幼稚)不感どころか有感だらけのこのごろです。母親であり、また妻であり乍ら仕事をもっているというのは、勿論経済のためばかりではないのですが、仕事をもつ必然性と、家族とくに子供に強いる犠牲を天秤にかけたとき、ふと迷ってしまうのです。娘はそれぞれ小学4年と2年になり、あまり問題なく育っており、所謂手は離れているのですが、精神的には却って母親を必要としているように思えます。育児にも教育にも最も必要なのは親または教育者の忍耐力である筈です。にもかかわらず子供と接する時間があまりにも短いために、焦りすぎ欲張りすぎてついヒステリーをおこしてしまいます。そういう心の余裕のなさが反映しはしないか、真剣に考えることがあります。仕事をもつことには勿論よろこびも意義も見出していますけれど、出処進退、自分の意志一つとなると却って迷ってしまうものです。

昨年からは柄にもなく菊作りをはじめました。幸田先生が「菊作りも子供を育てるのも要領は同じ、お盆位の花が咲く」とのお言葉を添えて、苗をわざわざ持って来て下さったのがはじまりです。馴れぬ手つきで芽をさしたり、肥料をやったり、また留守の間に暴風雨になったりすると、叶わぬ乍ら案じたりするのは、育児と全く同じですが、もの云わぬ植物にはヒステリーをおこすこともなくそこだけは大違いと思っていたらケーキ皿位の花しか咲かず、またまた考えさせられてしまいました。

今年の夏は子供をつれて磐梯山麓に行く予定。また8月末に太平洋学術会議が開かれますので、シンポジウムだけでも出席して、国際会議の雰囲気味わいたいと思っています。

☆ 岡 崎 セ ツ 子

本学松井先生の研究室に助手として勤め、今年は3年目になります。仕事の大部分は松井先生の那須野盆地研究の統計等に関する雑用です。他に浅海先生の下で土壌の粒度分析・粘土鉱物の示差熱分析等を行なっています。さらに2年生の地図学演習では、地形図を利用した各種計測等について式先生の御手伝いをしています。

個人的な仕事としては、「立川段丘面における関東ローム層の厚さの場所による違い」について纏めているところです。この他、1/5万地形図の読図・地形計測等によって、日本の山頂平坦面について調べています。勤めがありますので、いずれも、三余(冬、夜、陰雨)に非ず一余をもつてすること故、仲々はかどりません。